

## 救助隊チームレスキュー基礎訓練（6月度の報告）



1. 日時 2016年6月18日

2. 場所 高宕山大滝ルート

3. メンバー 12名

(CTC) GL 徳永副隊長・神山・角掛、(まつど遠足) 西村副隊長、(船山) 関口、(岳樺) 古畑、  
(東葛) 星、(ふわく) 田中(康)、(松戸) 加倉井・石塚、(かがりび) 伊東、(ちば山) 住田(記録)

### 4. 内容

チームレスキュー基礎訓練（三次搜索想定、二次遭難回避）

#### [装備]

- ・ アルパイン・沢登り主要装備(ハーネス、ビレーデバイス(ATCガイド、ロープマンI..))
- ・ スタティックロープ  
11.0mm\*50m x2本、9.0mm\*100m x1本
- ・ アッセンダー(ユマル、ベーシック..)
- ・ ジャミングプーリー(マイクロトラクション..)、プーリー
- ・ ストップ..

#### [訓練内容]

- ・ フィックス支点工作
- ・ スタティックロープ(シングル) + バックアップロープによる懸垂下降(右上)、カウンターラッペル
- ・ 懸垂下降からの登り返し
- ・ 引き揚げシステム(1/3)(右横)
- ・ 救助用ザックによる負傷者背負い訓練(次)



## 5. 隊員感想

スタティックロープ(シングル)とアッセンダーでの登り返しは、アルパインのダイナミックロープ(ダブル)に比べて、スムーズで扱いやすいと感じた。

引き上げは、1/5システム以上でないと重くて上げられない認識であったが、今回プーリーを支点の2ヶ所に配置することにより、セットが簡素な1/3システムでも、十分実用的なことがわかり、収穫であった。特にマイクロトラクションは軽量で、7点セットに加えて常時携帯してみたい。



救助ザックは、組み立てが必要で慣れておく必要があるが、背負われる方、背負う方とも負担が少ないようで、有効な装備と思った。

今回の訓練場所は、比較的近場でハイク者も少なく、駐車場からも遠くなく、基礎訓練場としては良い場所であった。

### 新隊員の感想

今回初めて訓練に参加した。

教育遭対での訓練は、通常持っていく装備(主として7点セット)でのビレイや搬送であるが、救助隊訓練では、救助のための装備を準備して行うため、本格的な訓練であることを実感した。

(100m ロープが必要なことも納得)

初めての器具(デバイス)(シャント、ユマール、ロープマン、プーリーなど)を使い、救助のための基本的な技術である、支点づくり、下降、引き上げを行った。

特に、1/3システムによる引き上げは興味深かった。簡単な仕組みで、1/3の力で引き上げることができることは驚きである。

現場で撮影したビデオも、後でゆっくり見直しができ、徳永リーダーの的確なアドバイスを繰り返し聞けて、大変有効だと思う。

今後の訓練も撮影し、ライブラリ化していくとよいと思う。

短い時間だったが中身の濃い訓練で、今後も継続して参加していきたいと思っている。

以上

補足メモ 1 1/3引き上げ（プーリー必須）

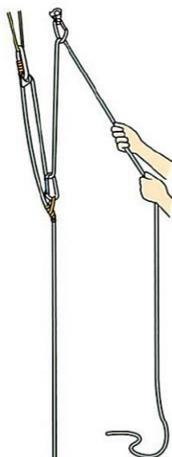


左上：  
マイクロトラクション  
（ベアリングマーク付）  
軽量で効率 good

左下：  
ロープマンの代わりに  
アッセンダー、ベーシック  
クでも訓練実施

■1/3システム

プーリーの代わりにタイブロックとカラビナを使った1/3システム。タイブロックとフリクションノットを使ってオートブロックシステムとしている。タイブロックを使用するときは、必ず径の太いO型の安全環付カラビナと併用すること。



1  
このようなシステムを構築して事故者を引き上げるのが1/3システム。この例では、ロープを引っ張る方向を変えるためのカラビナを支点に1枚セットしている



2  
ロープにフリクションノット（ここではクレムヘイストノット）をセットすると引っ張るときに力を入れやすい



3  
フリクションノットをハーネスにセットすれば、体重をかけて引くことができるので楽だ

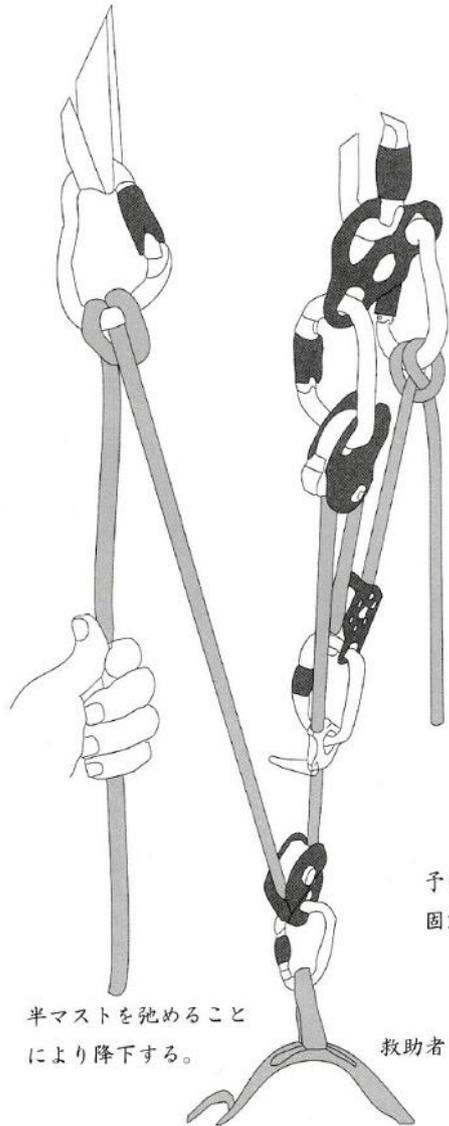
左図：タイブロック使用時には、重りでカラビナをぶら下げておく。

中央図：今回はアッセンダー使用

出展：  
登山技術全書

セルフレスキュー

補足メモ2 出展：レスキュー技術  
今回は、1/3システムで訓練実施



①救助者下降時のセット  
ロープ末端側を引き上げのシステムをセットの上で固定する。もう一方は、半マスト他の制動セットを行ったうえで、その間に救助者の滑車とバックアップ（図には記述してない）

救助者が負傷者の位置まで降下して、応急処置を施した後に、救助者と負傷者をストレッチャー等で同時に引き上げるには、1/6～1/10システム程度のセットが必要となる。これは、基本システムの組み合わせによって容易に構築できる。

(5) 救助者が降下して負傷者と共に引き上げる

い) をセットする。その上で別途の別ロープにより、バックアップロープとする。半マストを緩めることにより救助者は下降していく。

途中でロープ屈曲点が発生すると思われる箇所には、滑車を設けながら下降するとよい。

降下後の引き上げの時は、

1. 左の半マストの上に、仮固定(任意、Gノット?)をする。
2. 右のクローブヒッチを解除し、プーリーに差し替え、引き上げる。